

炉の上部を解体し 曲がったかき混ぜ棒を強引に引き抜く

完全に行き詰ったガラス固化試験 アクティブ試験を中止せよ！ 再処理工場は閉鎖へ！

末期症状のガラス固化溶融炉

－ 90度 に折れ曲がったかき混ぜ棒

六ヶ所再処理工場のガラス固化試験は、文字通り末期症状である。極めて危険な高レベル放射性廃液を処理するためのガラス固化体を作ることができない。

10月23日にガラス固化試験で初めて、溶解工程で溶け残った白金族などの不溶解残さを入れた途端に、白金族堆積指標が限界レベルに達した。堆積した白金族の流下を促し、「安定した運転状態の維持」（原燃）のためにかき混ぜ棒（かくはん棒）を入れたが、この直棒を抜き出すことができなかった。

12月10日に原燃が公表した右の写真・図では、かき混ぜ棒が90度にぐにゃと曲がっている。新聞報道によると、このかき混ぜ棒の太さは25mmほどで、先端部分50cmほどは約17mmと細くなっている。この細い部分で折れ曲がっているのが確認されたという（asahi.com 12/13付）。

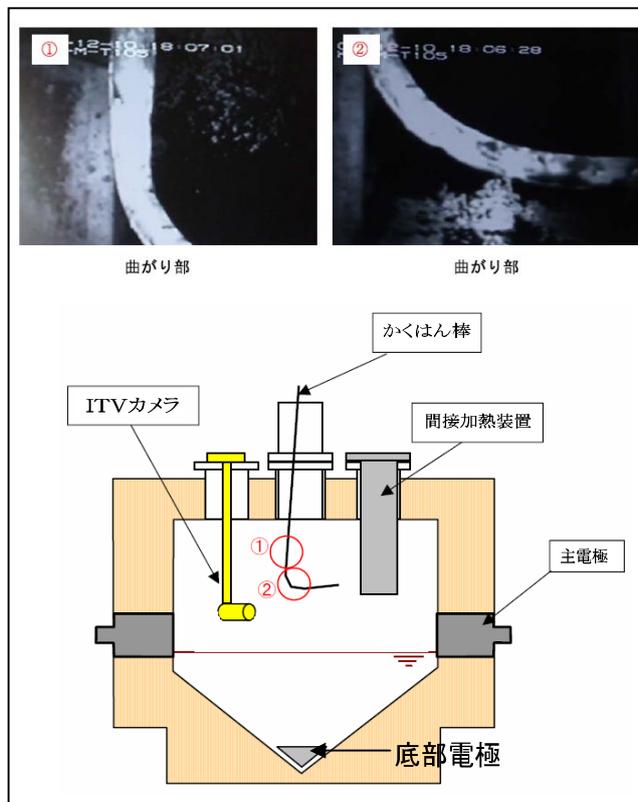
かき混ぜ棒は、耐熱素材で非常に硬いインコネル製といわれている。そのような棒が、約1000度の溶融ガラスの中で強度が低下し、見ることができない状態での遠隔操作によって上からパワーマニピュレータで力をかけたために、曲がったのである。そもそも、白金族が堆積するというこの溶融炉の根本的欠陥を放置し、白金族が溜まれば、かき混ぜ棒でかき混ぜるということ自体が対症療法にすぎないのである。かき混ぜ棒を使用すれば、「安定した運転状態の維持」ができるという原燃の場当たりの方策は事実で破綻したのである。

なお、炉の上部から底まではおよそ3m以上である。底部に溜まった白金族元素などで流れにくくなった状態を改善するため、底部電極中央にある約2～3cmほどの小さい穴を3m以上もの長いかき混ぜ棒でつついて流れやすくするという手段は、2階の窓から地面に置かれた10円玉のような的に長い棒をあてるようなものである。目に見えていても難しいのに、目には見えず、しかも遠隔操作で高いところから小さな穴に棒を入れるのは至難の技に違いない。

炉の上部を解体しクレーンで力まかせに引き抜く

炉内の損傷調査ができるのは約1ヶ月後

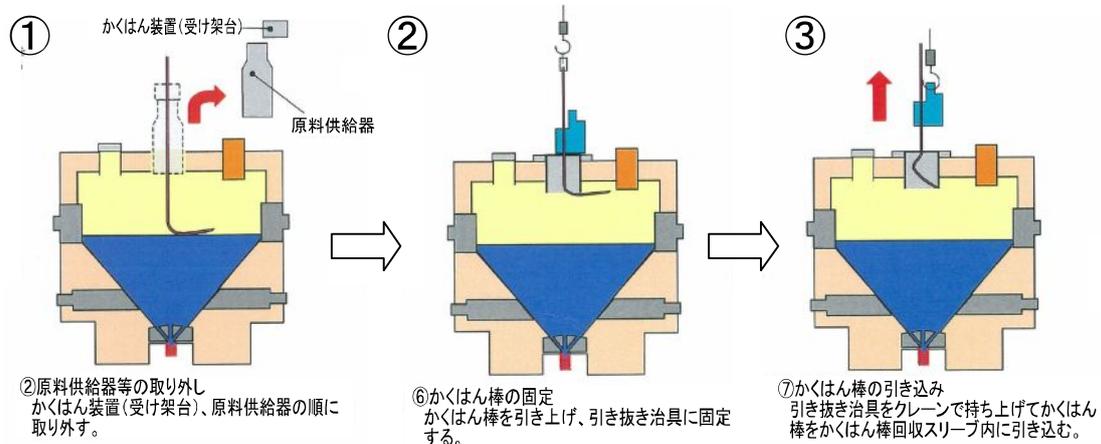
原燃は12月22日に、このかき混ぜ棒の引き抜きが終了したと発表した（東奥日報 12/22）。



（日本原燃のホームページより）

記事によれば、20日に1時間かけて抜き終えたようである。引き抜き方法は19日に原燃が公表した「経過報告」に図示されているが、クレーンで力まかせに引き抜くのである。

手順を要約すれば、①上部にある原料供給器を取り外す、②回収スリーブを入れる、③クレーンで引き抜く。②から分かるように曲がったままクレーンで強引に引き抜く。回収スリーブは、その際ガリガリとこすれて損傷することを見越しての措置だ。



この棒を取り出して再びカメラを入れたところ、曲がった棒がぶつかってできた可能性のある損傷が炉天井部に見つかり、重さ約6kgの耐火レンガが底に沈んでいた(12/24原燃公表)。このレンガを取らずに次の作業—炉内部に残っている熔融ガラスの抜き出し—に移る。炉底部の損傷状況の調査ができるまでに約1ヶ月かかる。炉を再加熱し、ガラスを熔融状態にして流し取るまでに約2週間。カメラを入れることができるまで炉を冷やすのに、さらに2週間必要という。炉内を見ることができるのは1月下旬頃だ。2月のアクティブ試験終了予定がまたまた延期になるのは必至である。その上、こんな無理をしても、白金族が堆積することの改善とはなんら関係がない。熔融炉の根本欠陥はそのままである。

新型熔融炉開発に16億円投入・・・2009年度予算財務省原案 ——これ以上税金をどぶに捨てるな——

このようにガラス固化試験が惨憺たる状況の最中、12月20日には、2009年度予算の財務省原案に、「新たな」熔融炉開発費として約16億円が計上された。

これは、経済産業省と原燃が来年度からの3年間で70億円もの税金をつぎ込む計画の初年度分である。開発の内容は、高レベル廃液を取り込みやすいガラス素材の開発、白金族などを効果的にかき混ぜるかき混ぜ棒の常設などである。「新たな」熔融炉というものの、現状の熔融炉の方式は変更せずそのままという付け焼刃なのである(詳しくは、2008年9月16日付原子力立地・核燃料サイクル課の「使用済燃料再処理事業高度化補助金」を参照)。

この開発は、白金族の堆積によってガラス固化体の製造ができなくなっているという現状の熔融炉の根本的欠陥には目をつぶっている。かき混ぜ棒という対症療法が役に立たないという事実も無視している。「新型炉」は何の役にも立たず、全くの無駄である。

無駄な開発に70億円もの税金を投入することは、税金をどぶに捨てるようなものである。「派遣切り」や「雇い止め」など働く者の雇用問題が深刻な社会問題となっている中で、再処理工場にこれ以上税金をつぎ込むことは許されない。

ガラス固化試験が完全に行き詰り、固化体を造ることができないことが誰の目にも明らかになった以上、アクティブ試験は直ちに中止するべきである。再処理工場は閉鎖するべきである。